

## 全交流電源喪失（長期TB）における原子炉隔離時冷却系の継続運転への影響評価

評価項目	影響概要	評価
スラスト軸受	潤滑油冷却器はポンプ吐出水により冷却することから、サプレッション・プール水温度上昇に伴い潤滑油温度上昇の影響を受ける可能性がある。	原子炉隔離時冷却系ポンプの運転継続に影響はない。 ジャーナル軸受同様、潤滑油許容温度が <input type="text"/> を超えることはなく、軸受機能は維持される。
復水器	サプレッション・プール水温度約 98℃にて機能停止に至る可能性がある。	原子炉隔離時冷却系ポンプの運転継続に直接影響することはない。 ただし、タービンランド部からの蒸気の微少漏えいにより室内環境が悪化するが、制御系は原子炉隔離時冷却系ポンプとは別区画に設置しており、運転継続に影響することはない。なお、現場での運転継続に係る操作については影響が懸念されることから、現場操作による運転継続には期待していない。
ガバナ制御	制御油の温度上昇に伴い、粘性低下が速度制御に影響を及ぼす可能性がある。	原子炉隔離時冷却系ポンプの運転継続に影響はない。 制御油の粘性低下により制御器からの指示信号と実速度に差異が生じる可能性があるが、差は極わずかであること及び速度制御は実際のポンプ吐出量によって決定されることから、ガバナ機能は維持される。